

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25770132

研究課題名(和文) 明清における文学と経学の相関をめぐって - 朱鶴齡の基礎的研究 -

研究課題名(英文) A Basic Study on Zhu He-ling --concerning the correlation between a literature and a classics in the Ming-Qing period--

研究代表者

江尻 徹誠 (EJIRI, Tetsujo)

北海道大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：80528232

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究「明清における文学と経学の相関をめぐって - 朱鶴齡の基礎的研究 -」では、明末清初の学者である朱鶴齡とその交遊関係をてがかりに、当時における文学と経学の相関関係を分析して、そこから清初の学者たちが多層的な交遊関係を形成しながら、その所論を発展させていったことを確認した。その成果は「朱鶴齡に関する基礎的研究 - その人物と著述活動について -」、「朱鶴齡に関する基礎的研究(二) - その著作と交遊について -」などの諸研究により報告し、新たな知見を学界に提示し得た。

研究成果の概要(英文)：A Basic Study on Zhu He-ling --concerning the correlation between a literature and a classics in the Ming-Qing period-- :This research, specifically focus on Zhu He-ling(scholar in the late Ming Period and the early Qing Period) and his relationships, to analyze the correlation between a literature and a study of classics. Finally it checked about the following points: The scholars in Early Qing Period, they builed a multi-layered relationships, and the relationships has advanced their research.

The result is reported by studies such as "A basic study of Zhu He-ling--His Character and Writings--" and "A basic study of Zhu He-ling #2--His Writings and Relationships--", presented to the academic community to obtain new knowledge.

研究分野：中国文学

キーワード：詩経 経学 朱鶴齡 明末清初

1. 研究開始当初の背景

まず、本研究の主たる研究対象である朱鶴齡について簡述すると、朱鶴齡は明末清初期を代表する文人のひとりであり、文学活動においては多くの詩文を遺した一方で『杜工部詩輯註』『李義山詩集箋注』といった、先人の業績を後世に伝承するための文化活動も実践している。その交遊は非常に幅広く、例えば先述の一大事業である『杜工部詩輯註』を紐解くと、「同郡參訂姓氏」として、197名の、同郷の知己たる文人・学者の助力を得ていることが看取できる。そしてその中には、呉偉業・徐乾学といった当世における著名人も数多く確認できることから、朱鶴齡が当時の呉江における文人達の交流の中心に存在し、少なからず重要な役割を果たしていたことが推察できる。やがて彼は、友人である顧炎武のすすめによって、晩年を経学研究に費やし、『禹貢長箋』『毛詩通義』等の著作を世に送り出した。

彼の著作についてみると、例えば『愚庵小集』は刊本として版を重ね、近年も上海古籍出版社や華東師範大学出版社から再版されているし、経学上の代表的著作『毛詩通義』は、『四庫全書』に著録された。同書は阮元による一大叢書『皇清經解』には著録されなかったが、近年、齊魯書社による『清經解三編』と題された叢書に収録されており、現代中国においてもなお、朱鶴齡とその学術に対する関心は高いことがわかる。

こうした出版状況に鑑みるに、朱鶴齡の学術とその著作はその学術性が大いに評価されておりながら、彼の学術活動の實際を考察の対象とした研究は充実しているとは言い難いのが、申請者が本研究を着想した当時の状況であった。詳述しておくが、専著に関しては管見の限り皆無であったし、専論に関しても、例えば中国学術文献ネットワーク出版総庫(cnki.net)によれば、中国国内では朱鶴齡に関する専論はわずかに13篇の期刊論文と4篇の修士論文が、また、国家図書館(台湾)によれば、台湾では専論として2篇の期刊論文、2篇の修士論文があるばかりであった。更に国内についても確認してみると、朱鶴齡を題材とする論考は、長谷部剛「杜詩解釈の多義性についての一考察--銭謙益と朱鶴齡の「注杜の争い」を中心として」(1997)および申請者による拙稿「陳啓源と朱鶴齡の詩経學--陳啓源『毛詩稽古編』の成立に関する一考察として」(2006)があるばかりで、その研究状況は低調であると言わざるを得なかった。

ところで申請者は上記の拙論を執筆するうちに、朱鶴齡の学術の発展と文人達との交

遊関係に、特筆すべき相関性があることを認識した。当該論文は朱鶴齡とその友人である陳啓源が交遊を深めながら互いに切磋琢磨し、その学術性を高めながらそれぞれの著作を執筆したことを解明したものである。朱鶴齡には陳啓源の他、顧炎武や呉偉業といった多くの知友がいるが、もし朱鶴齡が彼らとの交わりの中で様々な知識と啓発を得ていたとすると、晩年の朱鶴齡の、経学に対する理解と学識はそうした交遊の中でこそ培われたのではないかと、更に言うところ、朱鶴齡の経学に関する著作群は、彼の文学者としての活動の、ある種の結実として為されたものではないかと思考するに至った。

ここから、申請者は、明末清初における文学活動と経学研究の関連性を、朱鶴齡を介して考察することを企図した。

2. 研究の目的

本研究計画においては、朱鶴齡を媒介として明末清初期の中国学研究の推進をはかることをその第一の目的とし、着手すべき研究課題を設定した上で、それに対する考察を開始する。同時に、後進的な国内の研究と比較し相対的にこの方面の研究が進んでいる中国・台湾の学者と交流を深め、国内における当該分野の研究の底上げを図ることも目的とする。

3. 研究の方法

本研究では研究の方法として、進行すべき研究課題を以下の様に設定した。

(1) 朱鶴齡の代表的著作の校訂・整理：本研究の最も基礎的な作業として、朱鶴齡の著作の整理を行う。うち、『愚庵小集』『杜工部詩輯註』『李義山詩集箋注』については、それぞれ5篇・5篇・3篇の国外における先行研究があり、それらを参照しながら諸版本の整理とその内容に関する検討を行い、朱鶴齡の文学的立場についても明らかにする。他方、主に経学に関連する著作である『詩経通義』『禹貢長箋』『説左日鈔』『尚書埤伝』については、わずかに『詩経通義』に関する専論：李光筠「朱鶴齡詩経通義研究」(1988)が一篇ある他は、先行研究も皆無であるため、早急に資料を収集して校訂・整理する。

(2) 朱鶴齡の学術的交遊関係の整理：朱鶴齡の学術的交遊に関して、申請者は先掲の拙論にて陳啓源との交遊の一端を解明した。本課題では特に『愚庵小集』を活用して、朱鶴齡の交遊関係を整理し、そこから重要と思わ

れる人物達について、その著作も併せて考察を進める。第一の候補としては顧炎武が挙げられるが、この点に関しては先行研究として一篇の専論「周金標「顧炎武與朱鶴齡交往考論」(2009)があるため、当該の論文を参考として考察を進めていくこととする。

(3) 朱鶴齡の經学関連著作の分析：朱鶴齡による經学関連著作は、『詩經通義』『禹貢長箋』『讀左日鈔』『尚書埤傳』の四点である。このうち、申請者は『詩經通義』に関しては、陳啓源『毛詩稽古編』との相関性を既に論じているため、文人としての朱鶴齡の見識が、同書において如何に反映されているのかという点について更なる分析を加えることを端緒に本課題を進行する。次いで、先掲の課題(2)において顧炎武の考察を進めていること、彼に著作『左伝杜解補正』があることに着目して、『讀左日鈔』の研究に着手し、それから『禹貢長箋』および『尚書埤傳』に関する分析を行い、最終的には、朱鶴齡の經学関連著作に内包される文学的要素を明らかにし、そこから翻って、文人たる朱鶴齡の見識・學術および彼の交遊関係が、その經学関連著作に及ぼした影響の実態を解明する。

4. 研究成果

初年度からの主な研究成果：

前項にて、研究目的の遂行のために提示した三点の研究課題は、本研究計画終了後も引き続き関連する研究を進めていくための、最も基礎的で最も重要な課題である。今回の研究期間において、実際に着手し成果を得られた点について、以下の通り提示する。

清初を代表する文人・学者のひとりである朱鶴齡の人物像と交遊、および彼の著作活動に関する諸問題の整理。

朱鶴齡の著作『愚庵小集』『李義山詩集箋注』『杜工部詩輯註』等の諸テキストの収集・整理および校訂作業の進行。

朱鶴齡と顧炎武の交遊が持つ學術性と時代的意義の検討。

朱鶴齡と陳啓源の交遊が清初の經学にもたらした意義についての考察。

朱鶴齡の經学関連著作である『詩經通義』『禹貢長箋』『讀左日鈔』『尚書埤傳』等の整理およびその思想性に関する分析の進行。

まず上述の および について、朱鶴齡に関する情報の整理から、彼の著作に関する資料収集・整理までの基礎的作業は比較的順調

に進行した。

これらの作業を重点的に執行した結果として、研究計画初年度の時点で、本研究における研究課題のひとつ「朱鶴齡の代表的著作の整理・校訂」についてはその研究経路をはっきりと見出すことができ、論文「朱鶴齡に関する基礎的研究 - その人物と著述活動について - 」による報告においてその一端を示した。

また、研究課題「朱鶴齡の學術的交遊関係の整理」についても、校訂した資料を用いて朱鶴齡の生年から没年にいたるまでの學術的活動をあとづけて、彼の知己に関する多くの情報を得ることができた。その成果についても、論文「朱鶴齡に関する基礎的研究(二) - その著作と交遊について - 」による報告に提示しえた。

次いで、先掲の ~ の成果についても、この論文「朱鶴齡に関する基礎的研究(二) - その著作と交遊について - 」において報告した。 および の項目を個別に検討した際、 の項目で整理を加えた朱鶴齡の經学に関する著作、とりわけ『詩經通義』『讀左日鈔』『尚書埤傳』から多くの示唆をえて、朱鶴齡とその友人達との交遊関係が当時の学界にもたらした影響の一端を解明しえた。また、 の研究を進めていく中で、『讀左日鈔』の整理と考察から得られた知見の一部を、本研究から派生した成果として、「「礼」小識」(後掲の[図書]「北のともしび(二)」所収)として発表した。

文学者として知られていた朱鶴齡が多くの知己との交わりを経て經学への傾倒を示し、やがて執筆された彼の著作がまた周囲へと影響を及ぼしていく様子から、清初の学界における學術交流が持ちえた価値の、その一端を明らかにすることができたと思考する。

しかしながら、朱鶴齡の著作とそれらに関する資料は数多く残されており、二年という研究機関ではその全体像と詳細を明らかにしつくすことがかなわなかったのも事実である。

そこで、今後の課題として、本研究でその全てについては論及できなかった朱鶴齡の交遊関係と、それが清初の学界にもたらした影響について、継続して考察を加えることと、彼の經学に関する著作『詩經通義』『禹貢長箋』『讀左日鈔』『尚書埤傳』等の、より一層の整理と考察を進めることを挙げておきたい。資料の整理については、善本と呼ばれる稀覯書を、国内外で調査することも必要であるが、この点に関しても、調査の作業を継続中であるため、こうした一連の整理が終了次第、その成果を随時発表したい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

(1) 江尻 徹誠

「朱鶴齡に関する基礎的研究(二) - その著作と交遊について - 」(査読有)

旭川医科大学、『旭川医科大学紀要(一般教育)』、第三十一号、1-10頁、2015年3月発行

(2) 江尻 徹誠

「朱鶴齡に関する基礎的研究 - その人物と著述活動について - 」(査読有)

旭川医科大学、『旭川医科大学紀要(一般教育)』、第三十号、17-25頁、2014年3月発行

〔図書〕(計1件)

(1) 川添 泰信、江尻 徹誠、他(共著)

雪灯塾編、京都：永田文昌堂発行

『北のともしび(二)』

2014年7月、1-191頁(うち報告者執筆分、41-61頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江尻 徹誠 (EJIRI TETSUJO)

北海道大学・大学院文学研究科・専門研究員

研究者番号：80528232

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし